

## 企業プロフィール

- 会社名 : 社会福祉法人しんまち元気村
- URL : <http://www.genkimura.or.jp/>
- 業種・業務内容 : 介護
- 本社所在地 : 群馬県高崎市新町1863
- 従業員数 : 102名(関連法人含む)

## 取り組み背景

新入職員のOJTを担当するリーダー職の職員は、日常業務が忙しく、OJTのための時間を確保できない状況であった。また、指導の知識・スキルが不十分な上に、積極的な指導意識も薄く、OJTが育成制度として、きちんと機能していなかった。さらに、介護業界は新人の離職率が高く、定着化が課題であった。

## 取り組み目的

指導側のレベル向上による、OJT指導の効率化、正確化の実現と、それに伴う職員のサービスレベルの向上。

## 取り組み概要

OJTによる指導業務のプロセスを、指導担当と職員の会話の中から明らかにし、指導頻度の高い業務に対して、マニュアルを作成した。また、指導担当と職員の面談により、職員の目標管理や振り返りを定期的に行うようにした。

## 取り組み内容

1. 指導担当と職員との会話を23日間収録し、音声データを分析することで、どのような作業について話をする機会が多いのかを調べた。
2. 上記の結果、「移乗」、「入浴」、「食事」が上位を占めていることがわかったため、この3つの作業について、写真入りのマニュアルを作成した。  
各専門チームでマニュアルを検討した後、現場管理職によって精査した。
3. マニュアルに基づいた指導方法の検討会を行った。また、管理職と指導担当にアンケートを実施して、指導方法・教育内容に関する認識の乖離がないかを分析した。
4. OJTで教えるべき内容は、最初は業務別に分けられていたが、それをレベル別に5段階150項目に分け、初級から学べる内容に変更した。
5. 指導担当から職員への一方的な指導だけでなく、面談や各種シート類の作成を実施した。
  - (1) 目標別に毎日の目標を設定するシート、その目標を行動に落とし込むシートなど、職員それぞれが作成するシートを準備した。
  - (2) 活動の区切りである「フェーズ」が終わる毎に面談を実施し、上記のシートを使って、前のフェーズの振り返りや、次のフェーズの目標設定などを一緒に作成するようにした。

### <作成した個別マニュアル例>

**Transfer applied ver.1**

この移乗法は体重のある入居者や、介助者と入居者の体格差が大きい際に特に効果を発揮します



- 事前準備  
マヒ側が外に来るように車イスを約90度に設置する  
内側の足をやや前に出して置いてもらう
- 立ち上がりの足ガード  
⇒介助者は入居者の足を挟むように立てひざの体勢をとる  
マヒ側のひざを立て、入居者の太ももに当てるイメージで
- 抱え込み  
入居者の脇に入り込み、体重を預け前傾してもらう  
マヒ側の手は背中に回し、手前に引き寄せるイメージで  
もう片手は入居者のおしりの下に入れてしっかりと手を回す

※図では左側がマヒのかたを想定

**Transfer applied ver.1**



- 抱え上げ  
1, 2, 3の掛け声と同時に体を上げる ⇒回転させる  
しっかりと足を踏ん張り、矢印の方向へ体重移動する
- 回転  
1, 2, 3の掛け声と同時に体を上げ、回転させる

入居者へはなるべく声かけを行いながら移乗しましょう！

## 成果

- どの段階でどこまで指導すれば良いかが明確になり、指導がしやすくなった。
- 新入職員の介助技術にばらつきが出にくくなった。
- 指導担当のレベルが飛躍的に向上し、同じ指導の重複や、指導漏れなどがなくなった。